



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月14日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 水谷 彰洋 (TEL) 03-3433-3311  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年11月30日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・業界紙向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	30,310	11.3	514	72.8	623	32.3	457	48.2
2022年3月期第2四半期	27,242	7.3	297	—	471	—	308	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 562百万円(48.7%) 2022年3月期第2四半期 378百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	21.37	—
2022年3月期第2四半期	14.42	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	46,567	30,938	65.8
2022年3月期	43,429	30,481	69.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 30,646百万円 2022年3月期 30,204百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	5.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,000	14.9	550	35.7	700	△31.5	500	△32.7	23.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	22,689,000株	2022年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	1,276,656株	2022年3月期	1,277,756株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	21,412,344株	2022年3月期第2Q	21,409,344株

(注) 期末自己株式数には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式(2023年3月期2Q 267,400株、2022年3月期 268,500株)が含まれております。また、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(2023年3月期2Q 267,400株、2022年3月期第2Q 270,400株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)6ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日までの6ヶ月間）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症における各種制限の段階的緩和により社会経済活動に回復の動きが見受けられましたが、第7波の感染拡大が発生したこと、エネルギー価格や原材料価格の高騰、急速な円安の進行による物価上昇等が続いていることなどから、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

コーヒー業界におきましては、業務用市場の消費量は新型コロナウイルス感染症における行動制限の緩和により前年同期に比べ増加する一方、家庭用市場の消費量は外出機会の増加に伴い巣ごもり消費が鈍化したことや、メーカー各社の店頭販売価格の引き上げなども影響し若干の減少となりました。

また、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場は、ブラジルにおける本年度の生産量が下方修正されたことや、産地の乾燥気候による来年度の作柄への懸念、コーヒー先物市場の認証在庫量が低水準であることなどの影響により高止まりのまま推移しました。また、為替相場も記録的な円安基調が続きコーヒー生豆原料調達コストが上昇しており、厳しい経営環境下にあります。

このような状況の下、当社グループは「コーヒーを究めよう、お客様を見つめよう、そして心にゆたかさをもたらすコーヒー文化を築いていこう。」という企業理念を果たすため、長年にわたり培った「品質第一主義」のもと、「事業構造の改革」、「収益力の強化」及び「グループ総合力の強化」を3つの柱とし、新たな需要の創出や生活者のニーズにお応えする商品開発、お取引先の業績に寄与する企画提案型の営業活動を推進してまいりました。

また、2030年を見据えた新メッセージ「珈琲とKISSAのサステナブルカンパニー」を制定し、喫茶文化の継承と持続可能なコーヒー生産の実現を目指すとともに、その一環としてコーヒー生産国との連携や品種開発などの多岐にわたるサステナビリティ活動を推進する専門部署「コーヒーの未来部」を創設しました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高303億10百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益は5億14百万円（前年同期比72.8%増）、経常利益は6億23百万円（前年同期比32.3%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、4億57百万円（前年同期比48.2%増）となりました。

<連結経営成績>

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年増減	前年増減率
売上高	27,242	30,310	3,067	11.3%
営業利益	297	514	216	72.8%
経常利益	471	623	152	32.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	308	457	148	48.2%

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

(単位:百万円)

事業区分	売上高			営業利益又は営業損失(△)		
	当第2四半期	前年増減	前年増減率	当第2四半期	前年増減	前年増減率
コーヒー関連事業	26,407	2,745	11.6	722	171	31.1
飲食関連事業	1,834	156	9.3	△131	85	—
その他	2,067	165	8.7	124	△41	△24.8
調整額	—	—	—	△200	1	—
合計	30,310	3,067	11.3	514	216	72.8

(注) 調整額は主に、セグメント間取引取消、棚卸資産の調整額、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

### (コーヒー関連事業)

業務用市場では、厳選した生豆で作り上げたグルメコーヒーブランド「クレドール」シリーズをはじめ、トアルコ トラジャ、氷温熟成珈琲や認証系コーヒーなど差別性の高いコーヒーの販売を推進するとともに、業務用食材の取り扱いアイテムを強化し拡販に努めました。また、新規顧客の獲得に向けて、飲食店経営者及び開業予定者を対象に業務用商品やサービスを紹介するWEBサイトを立ち上げました。

お取引先の活性化策としては、世界中の品質の優れたコーヒーを数量限定で提供する月間企画の提案や新感覚アイスコーヒー「コールド クレマ」の導入推進、シーズン販促企画では店舗のお薦めカレーをラインアップした「推しカレーフェア」を実施しました。

カフェ開業支援の施策として取り組む様々な立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFÉ」は3店出店となり、導入店舗数は75店舗となります。

また、コーヒー生豆原料調達コスト及び仕入商材価格の上昇に伴い、前年に続き10月からのお取引先へのレギュラーコーヒー商品及び業務用商材の納入価格の改定を推進しました。

売上につきましては、行動制限の大幅な緩和などによりお取引先へのコーヒー及び業務用食材の販売量が増加し、前年同期に比べ大きく伸長しました。

家庭用市場では、春夏商品として主カブランド「グランドテイスト」及び「リキッドコーヒー テトラプリズマ」シリーズを全面リニューアルしました。また、業務提携契約を締結している京都の老舗喫茶店「京都イノダコーヒ」ブランド商品の拡充として、ドリップ オン「オリジナルブレンド/モカブレンド/有機珈琲 古都の味わいブレンド」、FP(粉)「有機珈琲 古都の味わいブレンド」、リキッドアイスコーヒー「無糖/微糖」の合計6アイテムの新商品を投入しました。

ギフト商品では、中元期に向けて「ドリップ オン」シリーズをはじめ、定番の「氷温熟成珈琲アイスコーヒー」や「天然水プリズマ飲料」、大人から子どもまで楽しめる「リキッドコーヒー&ジュースドリンク」など全27アイテムをラインアップしました。

また、前年に続き10月からのお取引先へのレギュラーコーヒー商品及びコーヒー関連商品のメーカー出荷価格の改定を推進いたしました。

売上につきましては、前年のレギュラーコーヒー商品のメーカー出荷価格の改定により前年同期並みの実績となりましたが、販売数量は店頭販売価格の値上げが影響し減少しました。

原料用市場ではお取引先への販売数量がコロナ前の水準に回復しつつあり、前年同期に比べ増収となりました。

営業利益は、業務用市場の売上が大きく増加したことや、引き続き人件費や固定費などのコストの抑制が図れたことなどにより前年同期に比べ増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は264億7百万円(前年同期比11.6%増)、営業利益は7億22百万円(前年同期比31.1%増)となりました。

## (飲食関連事業)

株式会社イタリアントマトでは、モーニング、ランチなど時間帯メニューの商品力強化を図るとともに、旬の食材を使用したドリンク、フード、ケーキの季節限定メニューを毎月投入し、白桃やマンゴーのフロゼンドリンク、駿河湾産しらすや天然赤海老のパスタ、シャインマスカットケーキなどを提供し集客力向上に努めました。また、物販ではコーヒーや焼き菓子などを詰め合わせた「夏の福袋」3アイテムを販売しました。

テイクアウト需要への対応としては、宅配代行業者との提携によるデリバリーサービス対応店舗の拡大や事前注文電子決済サービスの導入など利便性の向上に努めました。また、駅ナカや百貨店催事場などでの期間限定店舗の出店や、ケーキ専門通販サイトを活用した冷凍ケーキのネット販売に注力しました。

管理面におきましては、売上状況の変化に応じた人員配置や食材の発注、管理を行い、生産性の向上と廃棄ロスの低減に取り組み、人件費、原材料費の適正化を推進しました。また、原材料仕入価格の高騰に伴い、コーヒー及びドリンク、フードメニューの価格改定を実施しました。

店舗展開におきましては、既存の「イタリアン・トマト カフェジュニア」イオンモール熱田店、北大路店2店を新ブランド店舗「カフェ イタリアン・トマト」としてリニューアルオープンしました。また直営店1店、FC店2店を新規出店するとともに、利益回復が見込めない不採算店の整理を行い、店舗数は153店(直営店51店、FC店102店)となりました。

業績につきましては、売上面では行動制限の緩和による人流の増加や、前年に比べ営業自粛店舗が減少したことなどから来店客数の回復がみられ前年同期を上回りました。利益面では付加価値の高いメニューの継続投入やメニューの価格改定、人件費及び原材料費の管理強化に取り組み改善が図れましたが営業損失となりました。

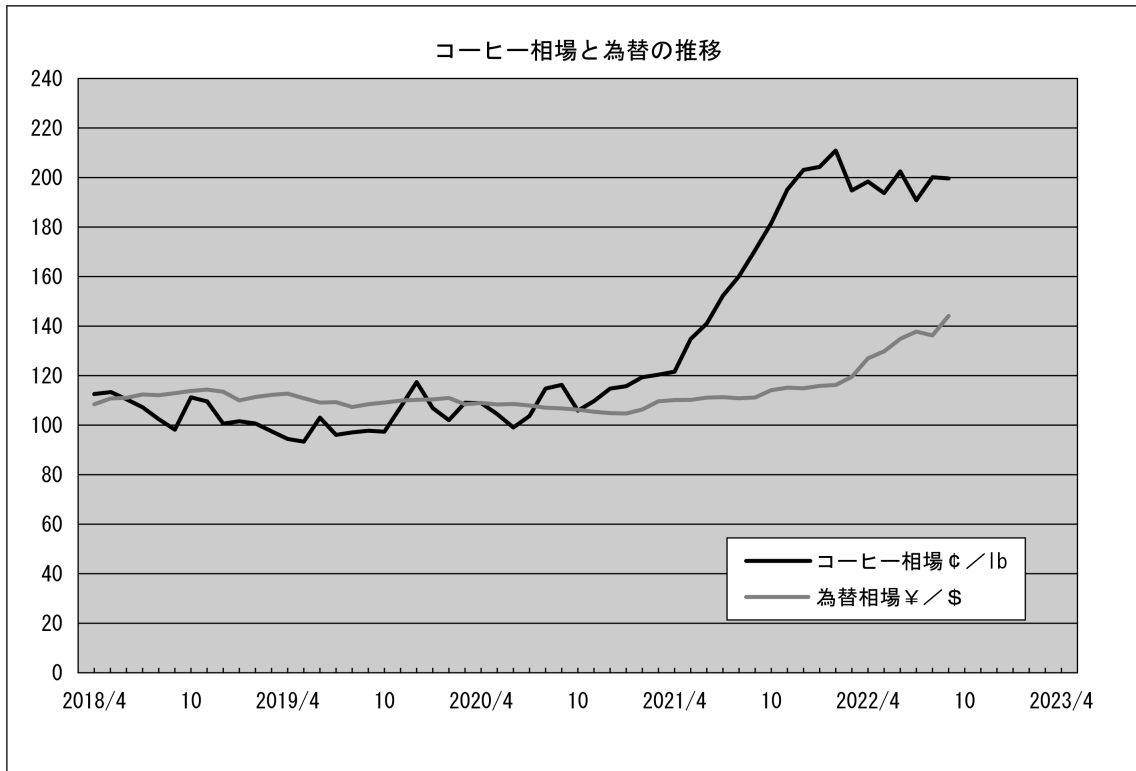
この結果、当第2四半期連結累計期間における飲食関連事業の売上高は18億34百万円(前年同期比9.3%増)、営業損失は1億31百万円(前年同期は2億16百万円の営業損失)となりました。なお、営業外収益として各自治体からの営業時間短縮に係る助成金等の収入60百万円を計上しました。

## (その他)

通販事業を営むhonu加藤珈琲店株式会社では、売上面では大手モールが主催するライブ形式の販売会に参画する等、顧客との接点強化等を推進した結果、好調であった前年同期並みの実績となりました。利益面ではコーヒー生豆相場の高騰に加えて様々な費用が上昇する中、販売価格の改定と販売促進費をはじめ様々な費用の削減を行い適正利益の確保に努めましたが、大幅な減益となりました。

ニック食品株式会社は、売上面では新型コロナウイルス感染症の行動制限の緩和や猛暑が重なったことで業務用市場を中心に需要が高まり、飲料製品を中心に受注量が回復し、前年同期に比べ増収となりました。利益面では売上の伸長に加え、製品原価の抑制や販管費の適正化に注力するとともに上昇する原材料・資材価格やエネルギーコストを価格改定に反映させた結果、大幅な増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は20億67百万円(前年同期比8.7%増)、営業利益は1億24百万円(前年同期比24.8%減)となりました。



(コーヒー相場：I C O複合指標価格)

(2) 財政状態に関する説明

(資 産)

総資産は前連結会計年度末に比べて31億37百万円増加し、465億67百万円となりました。

流動資産は29億81百万円増加し、293億75百万円となりました。これは受取手形及び売掛金の増加（8億62百万円増）、商品及び製品の増加（6億75百万円増）、原材料及び貯蔵品の増加（15億80百万円増）などによるものであります。

固定資産は1億55百万円増加し、171億92百万円となりました。無形固定資産は1億2百万円増加し、投資その他の資産は54百万円増加しました。

(負 債)

負債は前連結会計年度末に比べて26億80百万円増加し、156億29百万円となりました。

流動負債は28億7百万円増加し、137億74百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の増加（34億30百万円増）、未払金の減少（5億84百万円減）などによるものであります。

固定負債は1億27百万円減少し、18億54百万円となりました。これは退職給付に係る負債の減少（77百万円減）などによるものであります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて4億56百万円増加し、309億38百万円となりました。これは利益剰余金の増加（3億49百万円増）などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、現時点において2022年5月16日に公表致しました業績予想の変更はございません。



## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,443	5,293
受取手形及び売掛金	11,625	12,487
商品及び製品	2,474	3,149
仕掛品	194	203
原材料及び貯蔵品	5,976	7,557
その他	758	763
貸倒引当金	△79	△79
流動資産合計	26,393	29,375
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,099	4,080
機械装置及び運搬具（純額）	1,269	1,222
土地	6,570	6,570
その他（純額）	590	654
有形固定資産合計	12,530	12,528
無形固定資産		
のれん	115	146
その他	539	611
無形固定資産合計	655	758
投資その他の資産		
投資有価証券	2,716	2,744
長期貸付金	37	34
繰延税金資産	109	96
差入保証金	767	779
その他	384	416
貸倒引当金	△165	△165
投資その他の資産合計	3,850	3,905
固定資産合計	17,036	17,192
資産合計	43,429	46,567

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,972	10,403
短期借入金	82	209
未払金	2,185	1,600
未払法人税等	259	216
賞与引当金	321	362
その他	1,145	982
流動負債合計	10,966	13,774
固定負債		
繰延税金負債	141	141
再評価に係る繰延税金負債	478	478
株式給付引当金	47	55
その他の引当金	3	4
退職給付に係る負債	486	408
資産除去債務	434	439
その他	389	325
固定負債合計	1,981	1,854
負債合計	12,948	15,629
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,106	5,106
利益剰余金	25,317	25,667
自己株式	△2,543	△2,541
株主資本合計	32,509	32,861
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	342	380
土地再評価差額金	△2,736	△2,736
為替換算調整勘定	△9	13
退職給付に係る調整累計額	98	128
その他の包括利益累計額合計	△2,304	△2,214
非支配株主持分	276	291
純資産合計	30,481	30,938
負債純資産合計	43,429	46,567

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	27,242	30,310
売上原価	19,966	22,707
売上総利益	7,275	7,602
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	571	600
荷造運搬費	1,225	1,222
車両費	209	205
貸倒引当金繰入額	0	1
役員報酬	132	133
給料及び賞与	2,179	2,206
賞与引当金繰入額	211	275
退職給付費用	61	53
福利厚生費	374	394
賃借料	493	423
減価償却費	160	137
消耗品費	99	89
研究開発費	88	85
その他	1,169	1,258
販売費及び一般管理費合計	6,978	7,087
営業利益	297	514
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	11	11
為替差益	6	2
不動産賃貸料	33	33
助成金収入	170	60
その他	28	34
営業外収益合計	251	143
営業外費用		
支払利息	2	3
持分法による投資損失	61	22
不動産賃貸費用	7	7
その他	5	1
営業外費用合計	77	35
経常利益	471	623

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
特別利益		
投資有価証券売却益	28	—
特別利益合計	28	—
特別損失		
減損損失	11	—
特別損失合計	11	—
税金等調整前四半期純利益	487	623
法人税、住民税及び事業税	94	153
法人税等調整額	65	0
法人税等合計	160	154
四半期純利益	327	468
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	308	457

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	327	468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24	40
為替換算調整勘定	9	24
退職給付に係る調整額	25	30
持分法適用会社に対する持分相当額	△8	△2
その他の包括利益合計	50	93
四半期包括利益	378	562
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	358	547
非支配株主に係る四半期包括利益	19	14

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	23,662	1,677	25,339	1,902	27,242	—	27,242
セグメント間の内部売上高 又は振替高	276	4	280	705	986	△986	—
計	23,939	1,681	25,620	2,608	28,228	△986	27,242
セグメント利益又は損失(△)	551	△216	334	165	499	△202	297

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が営んでいる飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2億2百万円には、セグメント間取引消去△3百万円、棚卸資産の調整額36百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2億35百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,407	1,834	28,242	2,067	30,310	—	30,310
セグメント間の内部売上高 又は振替高	349	5	355	830	1,185	△1,185	—
計	26,757	1,839	28,597	2,898	31,495	△1,185	30,310
セグメント利益又は損失(△)	722	△131	590	124	715	△200	514

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が営んでいる飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2億円には、セグメント間取引消去△2百万円、棚卸資産の調整額66百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2億64百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。